

ヒブ (Hib) とヒブワクチン (アクトヒブ) について

What's new?

2013年4月よりヒブワクチンは任意接種から定期接種に変更となりました。定期接種になると以下のようなメリットがあります。

- ①接種費用が無料になる
(市町村区により一部自己負担がある場合があります)。
- ②東京都23区内の方はお住まいの区外でも接種可能となり、かかりつけ医で接種できる。

1) ヒブとは

ヒブはインフルエンザ菌b型 (Haemophilus influenzae type b: Hib) と呼ばれる細菌です。昨年騒がれた新型インフルエンザや冬に流行る季節性インフルエンザとはまったく別のものです (これらはウイルスです)。

インフルエンザ菌はこどもの鼻やのどに感染する細菌ですが、中でもインフルエンザ菌b型 (ヒブ) が髄膜炎などの重症の感染症をひきおこします。

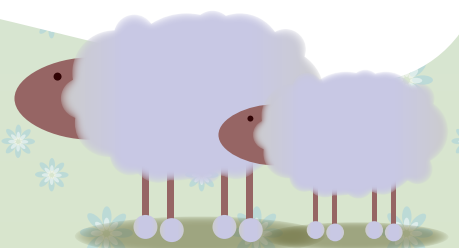
3歳くらいまでのお子さんはよく熱を出したり、せきや鼻水が出たり、吐いたり下痢をしたりしますね。みなさんもお子さんが熱を出した時はいつも心配だと思います。でも、そのほとんどはウイルス感染 (いわゆる風邪) ですから、水分を十分にとって見守るだけで自然とよくなります。しかし、その中に「細菌性髄膜炎」や「敗血症 (菌血症)」といった重症の感染症がまぎれ込んである可能性があります。そして、細菌性髄膜炎の約60%がヒブ、約20%が肺炎球菌によるものと言われています。

2) ヒブによる髄膜炎

髄膜炎の初期は風邪と見分けがつかないことが多く、診断が非常に困難です。ヒブによる髄膜炎は進行が早く、また重症化しやすいのが特徴です。

日本では1年間で約600人の5歳未満のこどもがヒブによる細菌性髄膜炎になっていて、抗菌剤治療にもかかわらず、5% (30人) が死亡し、25% (150人) に脳障害や聴力障害などの重い後遺症を残しています。また細菌では抗菌剤が効きにくい菌も増えてきています。

>> 裏面へ



3) ワクチンとは？

ヒブワクチンはヒブによる重症の感染症を予防する唯一の手段です。日本では世界に遅れること15年以上、2008年12月から接種ができるようになりました。

WHO（世界保健機関）では1998年にヒブワクチンを定期接種にするように勧告を出し、欧米諸国ではすでに多くの国が定期接種となっています。しかし、世界中ではヒブワクチンが普及していない開発途上国を中心に毎年40万人以上のこどもがヒブ感染症で亡くなっています。

副反応を心配される方も多いと思います。ワクチンなので全く何もないというわけにはいきませんが、ある調査では、多くは接種部位の発赤や腫れ、硬結（かたくなる）、注射後のふきげんなどでした。アメリカからの報告では、重篤な副反応は三種混合ワクチンの1/100程度です。また、ヒブワクチンは製造工程にウシ成分を使用していますが、これまでに世界中で約1億5000万回のヒブワクチンが接種されていて、伝染性海綿状脳症（TSE・いわゆる狂牛病）になった報告はなく、安全性は非常に高いと考えられます。

4) ワクチン接種のスケジュール（初回接種3回＋追加接種1回＝合計4回）

ヒブに対する抗体（いわゆる抵抗力）は赤ちゃんがお母さんのおなかの中にいる時にへその緒をとおして受け取っています（移行抗体）。しかし、通常、生後2～3ヶ月までにはなくなってしまう。

このため、ヒブワクチンは生後2ヶ月から7ヶ月に接種を開始するのがよいとされていますが、保育園などでのヒブ感染症の集団発生の報告もあること、ヒブによる重症感染症のピークが生後8ヶ月と言われていることから、それまでには初回接種の3回を終えることがよいと思います。生後2ヶ月になったら接種を開始しましょう！その他のワクチンとの同時接種も可能ですから複数の病気に対する免疫を早くつけるために同時接種をおすすめします。追加接種は3回目から7ヶ月以上経っていれば可能ですが、1歳を超えたら肺炎球菌ワクチンの追加接種との同時接種をおすすめします。

7ヶ月以上12ヶ月未満のお子さんでは初回接種2回＋追加接種1回の合計3回で、1歳以上5歳未満のお子さんは1回の接種のみとなっています。

5歳以上のお子さんは不顕性感染で抗体を獲得することでヒブによる重症感染症の発症率は低下するため、接種対象者とはなりません。

5) 最後に

ヒブによる重症感染症はワクチンで防げる病気です。

ヒブワクチンが定期接種化になったということは、国としてヒブワクチンを重要だと位置づけたためです。ヒブワクチンを接種することで重症のヒブ感染症からお子さんを守りたいということは、われわれ小児科医の切なる願いでもあります。

2013年4月改訂
高嶋 能文



たかしま よしふみ
高嶋 能文
山梨医科大学卒
日本小児科学会専門医
日本血液学会血液専門医
日本がん治療認定医
日本性感染症学会会員
日本エイズ学会会員

自由が丘メディカルプラザ 小児科
東京都目黒区自由が丘2-11-16
ニューパルビュー3F
<http://www.jiyugaokamp.com/s>
TEL : 03-5731-3565

